

リレーエッセイ

コロナ後の生活

新しい生活様式

阿部正紀(吉富町)



人が自分の生活の在り方、過ごし方、つまり自分の生活様式を変えるといことは非常にむづかしいことだと思う。

年端の行かない若年者を除いて、一般の大人達はそれぞれに数十年単位の生活を続けている。長年に渡って続けてきて身に付いた生活のやり方、過ごし方は特に変える必要もなく、またこれで良いのだろうかと思わなくてもなくなる。とにかく前例通りにやってみることが楽なのである。

こんなことだから生活が習慣化し易い。生活が習慣化したことが原因で、慢性的な病気を持つことにもなる。いわゆる生活習慣病といわれるもの。高血圧症、動脈硬化が原因の血管梗塞症、糖尿病、狭心症などの心疾患、こんなものは生活習慣病といわれるもので、基礎疾患とも呼ばれ、今や万病の基とされている。

私たちとって、今年の春先から突然楽な生活習慣を変えざるを得ない事態が発生した。新型コロナウイルスなるものの出現である。一年近くになろうかというのにその新型コロナウイルスの正体が分かっていないのである。

日本全体で、もう十万人近くの人が罹患

し、その内死者数は一千七百人に達している。全世界では、四千三百万人が感染し、死者数は百十五万人に達している。

医療的には最も進んでいる国と思われるアメリカでは、罹患者数は八六三万人、死者数二十二・六万人である。驚くべき数字が並ぶ。

新型コロナウイルスの正体が分かっていないがために、未だに治療法が無いのである。現在の最も有効な治療法は、マスクと手洗いという極めて原始的な方法しかないのである。

ここまで来れば私たちは、生活の様式そのものを変えなければ、生きては行けないのかも知れない。果たしてどんな生活様式が良いのか、また大悩みしなければならぬようである。医学は猛烈に発展しているのに、その落差は大きい。珍奇ながらマスク、手洗いしか防御の方法がないというのも面白い。

戦略的には大胆に、戦術的には細心という言葉がある。なあに！コロナなどに負けてたまるかと言う気迫と、そうは言っても単純なことだがやはりマスクをし、手はこまめに洗おうという生活様式を習慣化する必要があるそうですね。



新型コロナ経験を活かして

柏木主税(犀川喜多良)

テレビのスイッチを入れれば、新型コロナウイルスの感染者数、感染防止対策、対策実施に伴い経済状況の低迷等の放映を毎回のよう目にする。

感染源と言われる中国で発生してから、瞬く間に全世界に拡大し、世界全体が混乱している。自然界の力(風水害含む)に対して、人間の無力さを感じさせられた。しかし、先人達はそれに立ち向かい努力し研究して不可能を可能としてきた。

百年前、第一次世界大戦中にアメリカ軍部隊で発生したインフルエンザは軍隊の移動関係もあり世界各地に感染が拡大し、日本も多くの感染者、死者の犠牲があった。私の父方の祖父もその犠牲者であった。

対応に為す術のない時代に多くの科学者、政府機関、国民等、研究に研究を重ねて病気を収束させた。他の動物に比較して人間の進化はこういうところかもしれない。



治療薬の開発に力を注いでいる。日本も新内閣の最重要項目に掲げ取り組んでいる。日本国民一人ひとりが国の政策に一致協力する必要があると思う。

こういう時こそ、相手を思いやり助け合う心がいせつで、感染者には責任はないのであります。

一刻も早期に新型コロナを撲滅し、収束させることにより、対策期間中の経験を活かして感染拡大前より、国際関係及び経済が良好になりますように願いたい。

南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏

お参りと日々の生活

村上宣(念信寺若院)



秋も深まり冷え込む季節となり、今年も残すところ2ヶ月を切りました。振り返ってみると、今年は新型コロナウイルスに始まり、それに伴いオリンピックの延期や著名人の訃報などを皮切りに、私達自身も様々な日常生活の変化を余儀なくされました。皆右往左往したことを思います。

先日、とあるお宅に初めてお参りをさせて頂いたところ、息子さん御夫婦やお孫さんが後ろについてお参りされました。聞けばそのお宅は、昔から月のお参りには必ず家族みんなが帰ってきてお参りを一緒にするそうです。そこには昔からの変わらない日々が確かに息づいているように見え、私は漠然と「いいなあ」と感じていました。

考えてみると、コロナウイルスで私は右往左往して日常は遠くに行ってしまったように感じていました。世界中での死亡者は4千万人を超えたといえます。しかし、そうは言ってもお参りをする日々には変わりはないのだと思えます。

世間の情勢は様々な変化をして行き、それは私たちの日常を大きく変えるように思いますが、それらを一端脇に置いてお参りをする、私の変わらない日常がここにあったのだと思えます。

